

★武田美通作品展の見学会を行いました★

7月22日に武田美通「戦死者たちからのメッセージ」作品展の見学会を行いました。

「戦死者たちからのメッセージ」広める会世話人の仲内さんに1点、1点、背景や武田美通の人柄などを説明いただきながら見学できたので、より深く鑑賞できました。

参加された皆さんの感想です↓

いい企画でした。

鉄を鑄るのではなく組み立てる、ということ、よりリアルな表現になりました。死者たちの無念さよ！！ 岡本



作品からは飢えと病、更に自決を強いられた戦死者たちの無念さがひしひしと伝わってきました。同時に一部の人間による、自己犠牲が美德とされる精神論で日本中が支配された怖さも感じました。改めて平和の尊さを痛感。

お世話さまでした。見応えがある作品展でした。行って良かったです。 松井

この夏「戦死者たちからの強烈なメッセージ」をいただきました。この30の作品はあまりにも無残で、本当の地獄を見る思いです。



これは鉄の造形作家 武田美通(1935～2016年)さんが作ったものです。

武田さんの自己表現力のすごさと心の内を訴える力が、見る人を圧倒させます。

パンフレットの一文を書きます

「あの戦争は何だったのか。

しっかりと検証されたのでしょうか。

私たちの死は無駄ではなかったのでしょうか。

それを確かめたくて帰ってまいりました」

我が国の保守の国会議員は何を考えているのだろうか。国民から43兆円も税金としてまきあげて、アメリカの言いなりになってはいけない。 加藤

世話人の仲内さんの説明で背景がよくわかり良かったです。鉄の骸骨の兵士たちや母子の無念さに胸が痛くなりました。作品の多くが日本軍の無謀な作戦の被害者としてとらえられています。しかし、遺作となった作品は骸骨ではなく軍服を着て、倒れて突き出した手(敵か?民間人か?)を銃剣で叩こうとしている若い兵士でした。そこには加害者としての姿が描かれているように思いました。 福田





世話人の仲内さんの説明をききながら鑑賞出来て良かったです。とにかく鉄の骸骨の兵士の訴えに圧倒されました。「作者のやさしさが出ている作品」と、たびたび仲内さんがお話されるのが印象的でした。鉄の骸骨ではあるが、体全体でその表情が浮かび上がるのです。印象に残ったのは2番の「残された数秒の母子の命」でした。必死でお乳を与える母、ぴったりくっついてる赤ん坊。母親の首はその必死さをあらわしていると思いました。兵士は骨と付属物ですが、この母子はなめらかに描かれていました。この作品展に出会えたこと本当に良かったです。毎年、鑑賞し「絶対に戦争は嫌だ！」と叫びたいです。 中澤

幼な子を抱く母の手に手榴弾・・・
こんな光景が二度とあってはいけ
ないと強く思いました。 野口

鉄の造形を見て戦争の酷い実態がリアルに
迫ってきて圧倒されました。反戦への思いを
強くしました。 松崎

30作品すべて戦争の悲惨さ、恐ろしさ、愚かさを感じさせるものでした。特に心に残ったのは、「残された数秒の母子のいのち」と「遺作(作品名不詳)」の作品です。乳首に吸い付くわが子を抱いた母の手には日本軍から渡された手榴弾(すでに安全ピンは抜かれて)があるのです。涙が溢れてしまいます。また、遺作となったのは、下から突き出そうとしている手を日本兵が銃剣で叩き潰そうとしているような作品です。見る人がどのように感じるかはその人の自由です、と案内の仲内さんはおっしゃっていましたが、私には「こんな戦争もうやめて！」と訴えている戦死者、それと今声をあげている人たちを潰そうとしているようにしか思えませんでした。案内の仲内さんと武田美通氏との出会い、創作に至った経緯なども聴くことができ、これらの作品をみんなに、特に政治に関心がないという人たちにぜひ見てほしいと思いました。 折笠



現在、作品は恵泉女学園のご協力でキャンパスの一隅に保管されていますが、恵泉女学園が閉校になるので、今後の作品の保管など考えなければいけないことが沢山あるそうです

展示会や保管は「戦死者たちからのメッセージ」広める会の会員会費やカンパで運営されているそうです。広める会を応援する意味で、三井住友海上9条の会として5,000円をカンパしましたので、ご報告します。

★職場九条の会共同行動実行委員会が渋谷駅で2回目の街頭宣伝★

職場九条の会共同行動実行委員会（損保、商社、銀行、生保、外銀、海運、出版OB、実教出版、千代田、東京労金OBの各9条の会）は7月29日（土）16時30分から1時間 渋谷駅ハチ公前にて「大軍拡・大増税に反対する請願書名」の街頭宣伝行動を行いました。5月の新宿駅に続き2回目の宣伝行動です。



持っていた9条のポスターを外国人の方がスマホとカメラ両方で撮影。
その後署名、名前は読めませんが、住所にはfranceと。大石



渋谷は外国人の観光客が団体で大勢来ていました。どこへ行くのかな？

でもいろいろな企業の9条の会の旗が良かったです。また、ハンドマイクスピーチは待ち合わせの人が聞いていて効果的でした。

私がビラを配っていたら、待ち合わせ中の男性が「来るまで手伝います」とティッシュを配ってくれて「ところで9条って何？」と聞くので説明したら「僕も戦争は反対」と力強く言ってくれ、嬉しかったです。とてもフレンドリーな人でした。

9条が何かを知らない人は大勢いることを知り、運動の大切さを実感した日でした。

中澤

中澤さんの魅力、包容力によるところが大きいのだと思います。福田

外国人が多く、英語の横断幕があってもよかった、と思いました。9条を国際的な運動に☺ 岡本

渋谷は外国人も多いので、今後は英語でのスピーチも考えたらいいのではないかと思います。折笠

渋谷では、若者の反応もあり参加して良かったです。

別件ですが、行動中に低空で飛行機が次々と飛んでいてびっくり。飛行ルートの問題も感じましたね。

松崎

★損保9条の会 秋の講演会は10月21日（土）です★

損保9条の会第20回講演会の講演者が渡辺治氏（一橋大名誉教授、九条の会事務局）に決まりました。渡辺氏の講演は大変わかりやすく、元気が出ると人気があります。

詳細は次号「たより」にてご案内しますが、ぜひご予約ください。

★全損保広島平和交流集会・全損保慰霊祭に参加しました★

損保9条の会として、増田さん（東海OB）、管野さん（日新OB）、福田（三井住友OG）が8月5日の全損保広島平和交流集会、6日の全損保慰霊祭、原爆碑めぐり、原水爆禁止2023世界大会ヒロシマデー集会に参加しました。

平和交流集会では「黒い雨」訴訟第2次原告団長の岡久郁子さんが講演されました。2020年7月の広島地裁全面勝訴、2021年7月の広島高裁の画期的判決までのお話と、その後せっかく手にしたこの司法判断が行政によって捻じ曲げられている現実（判決通りの解釈であれば被爆者認定すべき人を切り捨てようとする動き）を食い止めるために、「行政は裁判所の決定には従え」と第2次訴訟を提訴されたとのことのお話。最後に「原爆投下したアメリカに、その非道を謝らせたいと思って活動を続けている」との言葉に、被爆者の思いを強く感じました。

その後の懇親会では元気な現役の社員とも話ができ、ビッグモーターのことなども自由化が原因だ、経営は自由化の総括をすべきなど話が盛り上がりました。



8月6日 8:20~8:40 全損保慰霊祭

全損保の記念碑は、公園内で労働組合が建立した唯一の碑です。碑には「なぜあの日はあった」と原爆投下の理由を問う文字が刻まれています。

折り鶴と合わせ、全損保本部、各支部と一緒に損保9条の会として献花しました。

黙とうの間、セミの鳴き声だけが聞こえていました。78年前の原爆前まではセミの声と人々の生活の音があったのだろうなと思ひながら。

原爆碑めぐりでは暑い中、呉在住の日新の森田さんがガイドをしてくださいました。翌日はまた忙しい日々の業務が待ち受けていますが、森田さんは「平和の活動をすることでリフレッシュできる部分もあります」と前向きに話されていました。そんな彼女にすごく元気をもらいました。

原水爆禁止2023世界大会ヒロシマデー集会では91歳のサーロー節子さんが「次の時代を作るものは、主権者である市民社会の人々の意思と行動です」と話されました。損保9条の会もその一端を担っていると思います。

広島電鉄の路面電車のつり広告に「広島カープとジャイアンツのプロ野球ナイター」広告がありそこには「ピースナイター 戦争も核兵器もない未来へ」というメッセージが書かれていました。主催は広島カープ、中国新聞、中国放送、広島電鉄、生協ひろしま等の企業です。さすが広島！と思える広告です。

日々、目につくようにすることは大事ですね。損保9条の会の幟旗も大事だと思います。福田



三井住友海上9条の会・事務局

世話人/呼びかけ人 岩越・一色・大石・岡本・折笠・川上・土田・谷・中澤・蓮沼・伴・翠川・山本・福田